

# すまいるたうん



発行元  
東京新聞  
南千住東口専売店  
Tel.5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
Tel.090-2657-0300

生命を守るための行動ができる  
身近な助け人。荒川区立南千住  
第二中学校レスキュー部

「全校生徒の七割が所属しています。」

荒川区立南千住第二中学校レスキュー部は東日本大震災の翌年の平成二十四年に災害時に貢献できる中学生の育成を

目的に創設されました。AED講習会は全校生徒が受講しており、多くの生徒が他の部活動と掛け持ちしながら参加しています。なかよしまつりのお手伝いなど青少年育成南千住地区委員会主催の行事に参加したり、町内会の防災訓練にも積極的に参加しております。

レスキュー部は20回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞、地域のまちづくり功労賞都知事感謝状、12回地域の防火防災功労賞 最優秀賞（消防総監賞）東京都教育委員会児童・生徒等表彰など数多くの賞を受賞しております。また、東京新聞を始め、NHKなど多く報道され注目されています。

「顔見知りになって」



レスキュー部は、地域での縦の繋がりを大切にしており、近隣の保育園と連携して部員が園児と手を引いて

触れ合い、中学校まで誘導し保育園まで送り届ける園児の避難誘導訓練を実施しています。また、絆ネットワーク活動では、部員が支援を必要とされる学区内の高齢者宅五十世帯に毎月学校便りを届けており、運動会などのあいさつ状は約八百世帯に届けています。



また、九月八日に開催された「わくわくまちあるきたんけん隊」では部員たちがリーダーとなり六つのグループに分かれ、小学生を連れて地域の史跡や文化財を案内しました。幼児から高齢者まで見守りと顔なじみの関係を作ることにより、災害が起きた時の連携がスムーズになります。

「スーパーレスキュー部は防災のエキスパート」  
レスキュー部の中にスーパーレスキュー部があり、三十名の部員はジュニア防災検定を受けています。東京新聞南千住販売店の中村所長のご息子の明斗さんが部長で部員を牽引しています。消防署などの指導などを受けエキスパートになるためより高度な専門知識や技術を身に付ける訓練を行っています。

「自己肯定感がある子ども」  
人の役に立つこと、頼りにされること

により自分の存在意義が見出され、自信が持てるとともに、心が育つと齋藤進校長は仰っていました。

先月、夏休み中にも関わらず、体育館内で行われた防災訓練では消防署の職員の方々の指導に部員たちは真剣に耳を傾け、簡易トイレの組み立てや灯光器の運転の仕方を学んでいました。



消防団員が高齢化などで減少する中、地域の防災力の低下が各地で懸念されています。荒川区は地震の危険度の高い地区が多く、高齢者世帯も多く災害時の避難が課題となっています。

南千住第二中学校レスキュー部は防災の力強い担い手になります。災害時のお守りとなる南千住第二中学校レスキュー部です。

荒川区立南千住第二中学校  
荒川区南千住七丁目25番1号  
電話：03-3891-8532  
ファクス：03-3801-9824